

第 118 回 東葛しぜん観察会

理窓公園の小さな秋

高橋 節(松戸市)

日 時：2015 年 10 月 4 日(日) 9:30～12:00 天気快晴

場 所：東京理科大学 理窓会記念自然公園 (野田市)

参加者：一般 24 名 指導員 17 名

担当指導員：岩根、坂部、高橋

台風なみの低気圧が通り過ぎ、良いお天気に恵まれ、利根運河を眺めながら一路理窓公園に向かいました。理窓公園は、理科大創立 100 周年記念事業で造られた公園で、流山の自然が多く残っている所です。公園には杉林・ヤマユリ林・ひょうたん池・野鳥の森・よしの群生・カッコウ高原・蓮池・白鳥の池がありその周りに散策路が巡っています。その公園を三班に分かれて観察しました。

「小さな秋」をみつけるがテーマで、まさにその通りの観察会になりました。散策路の両脇にミズヒキ・マムシソウ・ガンクビソウ・アキカラマツ・ヌスピトハギ・ギンリョウソウモドキ・ヤマハッカ・ヒヨドリバナ・シラヤマギク・アキノノゲシ・セイタカアワダチソウ・ススキ・ナンテンハギ・ツリガネニンジン・ワレモコウ等の草花や大木のマテバシイ・シイノキ・コナラ・ホウノキ等が実を落とし、足元いっぱいに広がっていました。たくさん落ちているドングリを踏みしめて「何かにならないのか」といった参加者の感想がもれ聞こえてきました。

この観察会で自然の移り変わりの速さを実感しました。一週間前には、あたり一面キノコ(毒)の林だったのが、全くと言っていいほどきれいになくなっていました。キノコは地上に姿を現すと胞子をまき、役目を終える。その点、草花は実を残し、また違った姿を見せて楽しませてくれます。観察会に参加された方たちは、落ちていたホウノキの実を見て驚かれ、初めて見たとカバンからカメラを出して納めていました。またきれいな葉を見つけて「ホウバ味噌のホウバですよね」といってながめしていました。蓮池ではシラサギの飛ぶ姿やカワセミを見る事ができました。ススキの穂とセイタカアワダチソウそしてハナミズキの赤い実と青空、ふだんなにげなく通りすぎてしまう散策路も参加者の皆さんと一緒に秋を感じた一時でした。もうすこし時間があったらゆったりと観察できたのではないかと思いました。



シラヤマギク



ヒヨドリバナ



アキノタムラソウ



ワレモコウ